



月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小さなはこの4ものがたり</div> <p>はこの中に思いついたものをくふうしていれる</p>	A (2) イ	2		小学校第2学年 「かみを立てた、かたちから」	○箱を材料として、その空間の中に自分だけの世界を工夫しながら表す活動である。材料に触れ試しながら活動することで発想を広げ、中学校でのボックスアートへとつなげていきたい。	小学校第4学年 「ギコギココロコロたのしいなかま」 中学 「ボックスアート」	■牛乳パックの切った箱の中を見ながらどのような世界をつくったらよいか想像し材料を選びながら「こうしたい。」という表現へとつなげていきたい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光と色のファンタジー</div> <p>トレーシングペーパーや色セロハンを使い、光とかげの美しさをいかした飾りをつくる。</p>	A (2) ウ	4		小学校第2学年 「ゆらゆらウキウキ」 「あきをならべて いいかんじ」	○光を透す美しさを感じてそれを効果的に生かす活動であり、高学年になるとランプシェードづくりへとつながっていく。接着は細い断面になるので、化学接着剤できちんと接着できるように指導をする。	小学校第4学年 「ゆめいろらんぷ」	■簡単な試作品を用意し、美しく幻想的にひかる感じを味わわせ子どもたちの興味関心を高め、その仕組みを確認させ活動へと広げるようにする。
8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">いつもの場所で</div> <p>みぢかにある場所で、自然のざいりょうを使って、くふうして活動する。</p>	A (1) イ	2	・身近な自然材料を出発点にして発想を広げることは、高学年になっても大切にしたいもので多様な活動が必要である。	小学校第2学年 「土ってきもちがいい」 「ちきゅうからのおくりもので」	○身近な材料を使って、並べたり積んだりする活動は低学年から経験している。中学年では材料だけでなく場所も生かして活動するので、多様な場の設定ができる空間を選び活動をさせる。	小学校第5学年 「自然のなかでかんじたことを」	■自然材料の色や形、質感などの特徴が活動のきっかけになるので多様な材料を集められる場所を選び、探索活動を十分行って、造形活動に入っていけるようにする。
8 9	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ようこそキラキラの世界へ</div> <p>光を反射する紙を使って、組み合わせを工夫してはり絵にする</p>	A (2) イ	2		小学校第1学年 「つたえよう、わたしのすきなかたち・いろ」	○様々な材料をコラージュしていく題材である。デザインの装飾的に材料を貼っていく内容で、中学年では貼りにくい紙を使いところが高度になる。化学接着剤できちんと接着できるように指導をする。	小学校第6学年 「はさみと紙のハーモニー」	■教科書の作品を参考にし、材料の色や形、質感などの組み合わせや切る丸めるなどの技法を試しながら、自分の表したいものを見つけるようにする。
9	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タッチキャッチさわりごこち</div> <p>話し合いながら、いろいろなさわりごこちのちがいをみつける</p>	B	2		小学校第2学年 「うつつて 見つけて」	○自分の感じたことを言葉にして発表したり友達の発表したことを聞いたりする態度を身に付ける。	小学校第4学年 「カードで味わう、形・色」	■教科書の「ざらざら」「ふかふか」など、触った感じの言語化した言葉に着目し、材料を集める活動を進めるようにする。
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">くぎうちトントン</div> <p>くぎをうったり、木切れを打ち付けたりして、たのしくつくる</p>	A (2) ア	2		小学校第2学年 「かみを立てた、かたちから」	○木を材料とした工作であり、初めて釘とかなづちを使う。くぎ、かなづち、くぎ抜きのは扱いは、中学校技術につながるので、かなづちで釘を打ち付けることに十分慣れさせるようにする。	小学校第4学年 「ギコギココロコロたのしいなかま」 中学 「ボックスアート」	■木にかなづちを打ち込むことになれるように釘を打ちこむことを楽しみながら活動できるように、安全面に配慮した場の設定をする。
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">しょうかいしますわたしのだいすき</div> <p>色のぬり方をくふうして絵をかく。</p>	A (2) ウ	4		小学校第2学年 「えのぐじま」 「きらきらシャボンで」 「ぼかしあそびで」	○細部にこだわり再現的に表すことより大胆に自分の思いのままに「ペインティング」を中心に進め、高学年で自分の思いに合わせて筆を扱えるようにさまざまな筆の扱い方の経験を積む。	小学校第4学年 「絵の具で遊んで「自分いろいろがみ」	■この作品では、下書きなしにペインティング的な絵の具の扱い方を行う。筆の腹を使うなどさまざまな体験ができるようにする。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
1 1	くつ下や手ぶくろにまほうをかけると  ぬのや手袋などの組み合わせを生かしてつくる	A (2) ウ	4		小学校第2学年 「くいしんぼうのなかまたち」	○この題材では、平面的な元の形に詰め物をして立体に作り上げる活動であり、立体的造形操作がによって形が変わることを体験することで、高学年の液体粘土利用した作品へとつなげていきたい。	小学校第4学年 「願いの種から」	■児童が集めてきた材料を見たり触ったりして「布でできたもの」から「学習材料」へと価値を高めていけるように活動の時間を十分設ける。
1 1	ふわふわさんのかざり  やわらかい材料を使って、かざるものをつくる	A (2) イ	4		小学校第2学年 「ゆらゆらウキウキ」 「あきをならべて いいかんじ」	○飾るものを制作する工作の系統の題材である。中学年では、ふわふわした材料の接着と着色の仕方を経験させ、紙以外の素材の接着着色に慣れさせたい。	小学校第4学年 「ゆめいらんぷ」	■材料を手に取り、形、色、材質感などの、材料の特徴から自分のつくりたいものをイメージを広げようとする。
1 2	はんで広げたゆめ  厚紙などでつくったはんを使って、いろいろなうつつ方をくふうする。	A (2) イ	4		小学校第2学年 「うつつで見つけて」	○紙や雑材による版づくりの基礎を試しながら表すことで身に付け、高学年の木版や彫り進み版画につなげていけるようにする。	小学校第4学年 「ほと出てくるふしぎな花」	■うつつ方を工夫しながら、何枚もすれる紙版画のよさを十分味わわせ、型紙版画の経験を十分に積むようにさせる。
1	まんがでゴー  「自分マーク」をもとにまんがをかかす。	A (2) ウ	2		小学校第2学年 「あつまれ おなじ かたちいっぱい」	○自分のマークをかかすという発想を生かす題材である。自分を主人公にした絵をかかすことで、発達段階に応じた発想の広がりを体験させる。	小学校第4学年 「ぎゅうぎゅうにつめこむと！」	■主人公は「自分マーク」として、作例をもとにコマによる表現の違いに気付かせ、構成を考えさせるようにする。
1	だんだんだんボール  ダンボール箱を使って、みちかな場所にくふうしてかつどうする。	A (2) イ	2 +	・いろいろな形のダンボールを重ねたり並べたり切ったりすることで体全体で材料に関わり、材料と親しむことによって自分の思いや活動の構想を広げることが重要である。	小学校第2学年 「ほわほわむくむく」 「きってひねって、つなげると」	○大きな材料に体全体に関わり自分の活動を広げたり作り直したりしながら、表し方のよさやおもしろさに気付かせる。	小学校第4学年 「だんボール 切って、つないで」	■友達同士見合うことでいろいろな表し方のよさやおもしろさを感じたり見つけたりして、自分の作品のイメージ作りにつなげるようにする。
2	パタパタわにさん、クロールにちょうせん  動くしくみを生かして、水の上を進むおもちゃをつくる。	A (2) ウ	2		小学校第2学年 「コロコロ大きくせん！」	○水に浮かぶおもちゃの題材は、これだけである。水に浮かぶようにするには、どのように接着すればよいか、材料の選び方をじっくり考えさせる。	小学校第4学年 「パツパツ」	■仕組みづくりを子どもたちにしっかり理解させ、つくりながら動きが試せる場を確保する。
2	ふしぎなのりもの  みちかなものの形を生かして、思いついたのりものをかかす。	A (2) ウ	2		小学校第2学年 「ゆめのぼうけんものがたり」	○個人用絵の具の題材である。面描や点描などの筆の使い方を生かした多様な表現に取り組みできるようにする。	小学校第4学年 「まほうの力をもつ時計」	■ものの特徴から発想を膨らませ、形や色を工夫しながら自分の乗り物のイメージを広げていけるようにする。
3	みんなのゆめが広がって  空想の世界から思いついたものをくふうしてつくり、みんなでかざる。	A (2) ア	4		小学校第2学年 「ピコリンせいのカラフルパーティー」	○学年で経験した材料や技能を使って、つくる。また友達と協力して作ったりつなげて並べたりすることで作品の広がりをもった世界を感じ、高学年での共同制作の基礎体験となるようにする。	小学校第4学年 「ゆめいらんぷ」	■3人の子供たちの様子から表し方の違いや工夫に気付かせ、自分の夢の世界のイメージを広げていけるようにする。
	合 計		6 0					